

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 516

事務事業名	フッ化物洗口推進事業	
基本目標	010202	人を育むまち
政策		豊かな学力と生きる力を育む教育の充実
施策		小・中学校教育の充実
関連施策		

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	教育委員会		
課名	学校教育課		
課長名	丹野平三	内線	365
担当者名	坂田幸広	内線	376

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

会計	一般会計		
款	10	教育費	
項	01	教育総務費	
目	02	事務局費	
事業コード	090000		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	市内小学生全児童のうち、保護者がフッ化物洗口を希望する児童		
意図 対象をどのような状態にしたいか	定期的なフッ化物洗口を実施することで、むし歯予防のさらなる促進と生涯を通じた歯の健康づくりに対する児童及び保護者の意識の高揚を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	○実施予定校において、給食後、保護者及び本人がフッ化物洗口を希望する児童に対して、週1回実施する。 ○実施予定校は、順次拡充する予定である。 ①平成26年度 2校(東大村小・黒木小) ②平成27年度 7校(平成26年度実施校+三浦小・鈴田小・萱瀬小・松原小・西大村小) ③平成28年度 11校(平成27年度実施校+三城小・大村小・中央小・旭が丘小・竹松小・放虎原小・富の原小)		
事業期間	平成 25 年度	～	平成 年度
実施方法	直営		
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標 ①	フッ化物洗口実施校数	計画値		15	15	15	
		実績値		2	7		
		達成度	%		13.3%	46.7%	
活動指標 ②	フッ化物洗口実施者数	計画値		6,156	6,141	6,144	
		実績値		56	1,018		
		達成度	%		0.9%	16.6%	
成果指標 ①	フッ化物洗口実施率	計画値		75	75	95	
		実績値		0.9	17.0		
	フッ化物洗口実施者数/フッ化物洗口実施校総児童数	達成度	%		1.2%	22.7%	
		計画値		0.7	0.7	0.7	
成果指標 ②	DMFT指数(中1)	実績値		0.7	0.6		
		達成度	%		100.0%	85.7%	
	一人あたりの永久歯の平均う歯(虫歯)数						

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	27	252	1,763	1,835	1,835	1,835	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源		27	252	1,763	1,770	1,770	1,770	
② 人件費(千円)	0	1,661	1,561	1,454	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)		0.20	0.20	0.20				
時間外勤務(時間)		75	75					
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	0	1,688	1,813	3,217				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組を しましたか(昨年度の【ACTION】の 改善・改革の進捗等)	今年度中、すべての小学校(15校)においてフッ化物洗口を実施環境を整える。
事業が抱える問題・課題等	

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	定期的なフッ化物洗口によるむし歯予防対策は、歯科保健習慣形成のために必要である。						
	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	第二次大村市歯科保健計画に基づき、児童期のむし歯予防対策を市が積極的に推進する必要がある。						
有効性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	週1回のフッ化物洗口により、むし歯の保有率が軽減されるものと推測される。						
	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	フッ化物洗口の実施により、進んでむし歯を予防しようとする習慣が身に付き、ひいては健康教育の推進につながるものである。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	フッ化物洗口は、希望者のみの実施であり、今後推進していくうえからも実施希望者から経費を徴収することは難しい。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持
--------	------

内容 今後の方向性のもとで、どのような 取組をするか(課題や問題点等に 対する取組など)	
効果 事業の改善・改革によって期待され る効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
意見等			内容			

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。